



令和元年 8 月 29 日
国土交通省国土地理院
九州地方測量部

新地図記号が「防災の日」にデビュー ～「自然災害伝承碑」を掲載した 2 万 5 千分 1 地形図を刊行開始～

国土地理院は、地図記号「自然災害伝承碑」を掲載した初めての 2 万 5 千分 1 地形図を 9 月 1 日（日）に刊行します。「自然災害伝承碑」を掲載した地形図を通じて、各地域における自然災害への理解を深めていただけるよう、「災害への備え」を支援してまいります。

2 万 5 千分 1 地形図（以下、地形図）は、国土の管理に必要な基礎的な情報を記載し、我が国の領土を明示した、国土全域をカバーしている最も縮尺の大きい地図です。地形図は、地理・防災教育を始め各種分野で活用されています。

国土地理院は、過去に起きた津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害の情報を伝える新しい地図記号「自然災害伝承碑」を掲載した 2 万 5 千分 1 地形図を 9 月 1 日（日）に刊行（全国 15 面、計 60 基の「自然災害伝承碑」を掲載）します。

このうち九州地方測量部管内では、2 面（「桜島北部」及び「桜島南部」）を刊行し、あわせて 6 基が掲載されます。

また、同日、ウェブ地図「地理院地図」で公開している「自然災害伝承碑」の情報について、新たに 21 市区町 61 基を追加公開します。このうち九州地方測量部管内では、新たに 3 市 5 基が追加公開されます。今回の追加公開により、地理院地図における「自然災害伝承碑」の公開数は 41 都道府県 94 市区町村の 278 基、九州地方測量部管内では、7 県 20 市町村 53 基となります。

今後も全国の市区町村に情報提供を引き続き呼びかけ、「自然災害伝承碑」の情報を定期的に更新し、公開していきます。



2 万 5 千分 1 地形図における
自然災害伝承碑の掲載イメージ

【添付資料】

資料 1 2 万 5 千分 1 地形図ごとの「自然災害伝承碑」の記号数と伝承災害

資料 2 「自然災害伝承碑」の代表事例

資料 3 2 万 5 千分 1 地形図の「自然災害伝承碑」記号

（問い合わせ先）

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 2-11-1 福岡合同庁舎

国土交通省国土地理院 九州地方測量部

次 長 山本 宏章（TEL 092-411-7902）

測量課長 小室 勝也（TEL 092-411-7910）

2万5千分1地形図ごとの「自然災害伝承碑」記号数と伝承災害

令和元年9月1日刊行

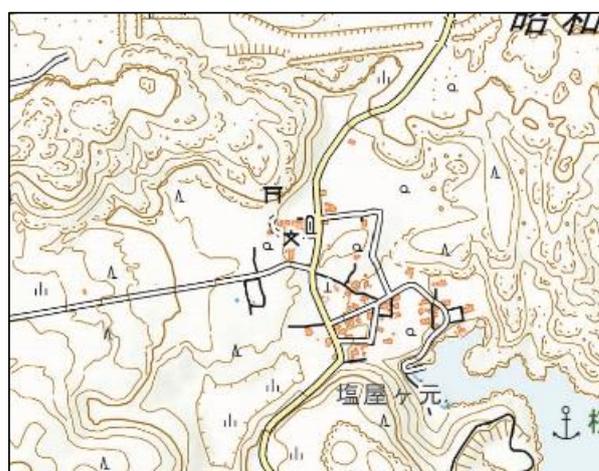
地形図名	伝承碑記号の数	市町村名		伝承されている災害
桜島北部	2*	鹿児島県	鹿児島市(2*)	桜島大正噴火(1914)
桜島南部	5*	鹿児島県	鹿児島市(3*)、垂水市(2)	桜島安永噴火(1779)、桜島大正噴火(1914)
計	6	鹿児島県	鹿児島市(4)、垂水市(2)	

※ 鹿児島市の1基は「桜島北部」と「桜島南部」の両図葉(重複部)に、同一の伝承碑記号が掲載されています。
「自然災害伝承碑」の写真及び伝承内容等は、国土地理院ホームページから参照いただけます。
(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>)

「桜島北部」掲載イメージ



「桜島北部」「桜島南部」掲載イメージ (図の重複部)



「桜島南部」掲載イメージ



「自然災害伝承碑」の代表事例

津波

(長崎県島原市)



寛政4年(1792)、島原大変の大津波による溺死体が多く打ち上げられた。

津波

(長崎県島原市)



寛政4年(1792)、地震により眉山が大崩壊し有明海に崩れ落ち大津波が発生した。島原側10184人、対岸の熊本側でも4997人溺死した。

土砂災害

(鹿児島県日置市)



平成5年9月20日、日吉町毘沙門地区で、幅約100mの斜面崩壊が発生、人家や住民を巻き込み二名が死亡するという、地すべり災害が起こった。国内において流失土砂量・範囲が最大級の地すべり災害となった。

土砂災害

(鹿児島県南さつま市)



平成5年(1993)9月3日、鹿児島を襲った超大型台風13号の風水害により甚大な損害を被りました。扇山地区では20名、白川地区では1名の人命が奪われました。

地震

(福岡県福岡市)



平成17年(2005)3月20日、福岡市玄界灘を震源とするマグニチュード7.0、震度6弱の地震により、道路が崖崩れなどにより通行止めになり、家屋被害も発生した。

地震

(佐賀県鳥栖市)



平成17年(2005)年3月20日午前10時53分頃、福岡県西方沖を震源とするM7.0の地震が発生した。鳥栖市では震度5強を観測し鳥居が倒壊したが、悲惨な事故等がなかったことが唯一の救いであった。

火山災害

(鹿児島県鹿児島市)



鳥島は高さ約20メートル周囲約500メートルの、玄武岩質岩石の島であった。1914(大正3)年1月13日、桜島西腹から流出した溶岩は18日にこの島を埋没させた。ここに碑を建ててその跡を示す。

火山災害

(長崎県島原市)



1990年雲仙普賢岳の噴火が始まり1991年6月3日発生した大火砕流により消防団員12名を含む43人の命が奪われた。

洪水

(大分県別府市)



享保14年(1729)9月13日のはげしい風や洪水のため、別府村と南石垣村と境した人衆が20戸余りも潰れ、大境村の男女の溺死が21人も出た。

洪水

(福岡県朝倉市)



昭和28年6月25日からの豪雨により未曾有の大洪水が発生した。床上浸水は勿論、二階に浸水の家も多数であった。土地改良及び水害復旧工事に労役8870人を要した。

洪水

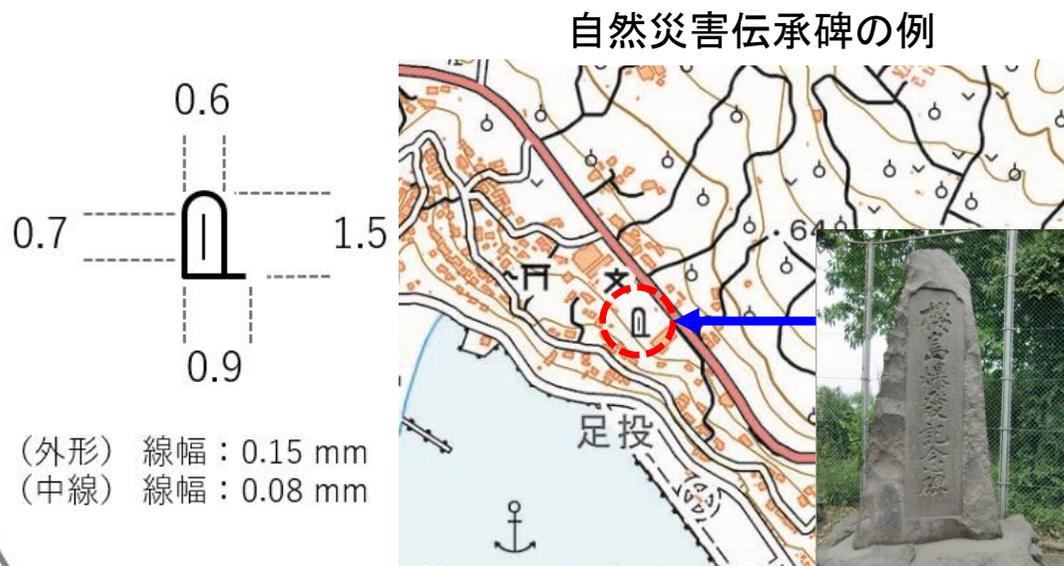
(鹿児島県出水市)



平成18年7月18日から23日にかけての豪雨により、出水市では米之津川の春日橋や広瀬橋付近で二度にわたり氾濫、甚大な浸水被害が発生し、貴重な財産を失う大災害となった。

- ・「自然災害伝承碑」は、過去に起きた津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害の情報を伝える石碑やモニュメントをあらわします。
- ・地図記号は、記念碑の記号に碑文を表す縦線を加えた形としています。
- ・従来の記念碑記号より若干大きいサイズ（縦・横・線幅→約1.5倍）としています。

「自然災害伝承碑」記号



(参考) 「記念碑」記号

